

# 弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-Kouhei.org

皆さんこんにちは。今年もあと三ヶ月足らず。早いものですね。今月は阿弥陀如来についてお伝えします。

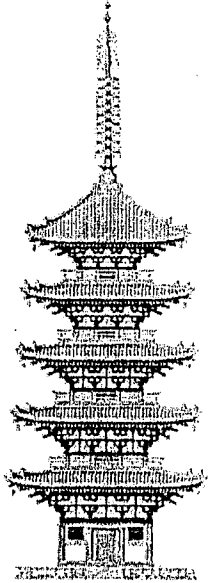
## ★光と長寿の阿弥陀如来

阿弥陀如来は、修行時代、法蔵比丘(ぼつどうびく)、法蔵菩薩と呼ばれていました。人々を極楽浄土に導くことで知られています。

阿弥陀は、「限らない」という意味の「アマタ」というサンスクリット語(インドの言葉)に由来します。限りなく世界を光り照らす如来という意味で無量光如来、あるいは**尽十方無碍光仏(じんじつぽうむげくうぶつ)**、さらには長寿にもご利益があることから**無量寿如来**とも呼ばれます。

## ★他力本願

無量寿経というお経の中に、法蔵菩薩が**四十八の願**を立て、それが達成さ



れなければ仏(如来)にならないと誓ったと書かれています。**十八番目の願は衆生を救うこと**でした。法蔵菩薩が仏になったことから、この願は達成されている、つまり衆生は救われていることになります。この解釈から、阿弥陀如来信仰が誕生しました。

**南無阿弥陀仏**と唱えれば阿弥陀如来に救われること、これが**他力本願**です。救ってもらいたいから唱えるのではなく、救われていることに感謝の気持ちを込めて唱えるのだそうです。



阿弥陀如来像

## ★九品来迎印

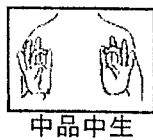
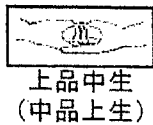
阿弥陀如来が極楽浄土から人をお迎えに来られる際には、**生前の振る舞いの善し悪しや信仰心の深さ**によって、その人にふさわしい**九種類の印**、すなわち**九品来迎印(くほんらいいん)**

を表します。両手をおなかの前で合わせる**上品**(じょうほん)、両手とも上に向ける**中品**(ちゅうほん)、右手を上、左手を下に向ける**下品**(げほん)。それぞれの品はさらに**上生**(じょうじょう)・**中生**(ちゅうじょう)・**下生**(げじょう)に分かれ、都合九種類です。最も評価が高いのが**上品上生**、最も低いのが**下品下生**となります。

日頃から善行に努めたいものです  
ね。

### ★アミダくじは阿弥陀如来の後光

さて、皆さんよくご存じの**アミダくじ**は阿弥陀如来に由来します。阿弥陀如来のお顔を中心に放射状に伸びる**線光背**と言われる**後光**を見たあるお寺のお坊さんが、これをくじに使うおと思いついたのが始まりだそうです。



### ★第二番札所日照山極楽寺

四国霊場で阿弥陀如来をご本尊としている札所は**九箇所**。そのうち、**第二番札所**は阿弥陀如来の後光と深いご縁があります。この地で修行した弘法大師が阿弥陀如来像を納めました。ところが、この札所に面する**鳴門海峡**は**鳴門の浮き鯛**で有名な豊かな漁場。阿弥陀如来像の後光があまりに眩しく、魚が寄りつかなくなりました。困った漁民たちが札所の前に小高い丘を築いて光を遮ると、再び豊漁になったそうです。以来、この札所は**日照山極楽寺**と呼ばれるようになりました。

### ★覚王山の極楽寺

**日本最小の四国霊場の「写し」、覚王山八十八箇所霊場の極楽寺**は山門を出てすぐ左側の**A地区**にあります。残念ながらお堂は失われており、今では石造りの仏像を残すのみです。山門に近いA地区は毎月大変賑わう場所です。付近には**千体地藏堂**や**番外札所**もあります。お参りの際にぜひお立ち寄りください。

### ★次回からは明王編

さて、来月からは**明王編**。明王はとても怖いお姿ですが、**魔を追い払うご利益**があるそうです。乞うご期待。